

# 04 春闘推進ニュース



全労連ニュース速報 NO.768

2004/04/16

全国労働組合総連合  
TEL:03-5842-5611  
FAX:03-5842-5620

許すな！ 雇用・賃金・年金破壊 守ろう！ 平和と憲法

## 16日厚生労働委員会は与党のみで開催 22日の公聴会は決められず 19日に持ち越し

与党は15日夕方の衆議院厚生労働委員会理事懇談会で、年金改革関連法案について月内の委員会採決を譲らず、16日午後の衆院厚生労働委員会で採決の前提となる公聴会を22日に行う日程の議決を提案。野党は審議が始まったばかりで、十分な審議が尽くされない現状で採決の日程を決定するようなことは許されないこと、また民主、社民両党は、中央社会保険医療協議会（中医協）を巡る汚職事件に関する集中審議が行われなかったことなどを理由に、16日午前から衆院で全面的な審議拒否に入りました。与党は16日午前単独で委員会を開き、午後休憩時間中に再度理事会の開催を予定しましたが、民主党が理事会の開催を阻止し委員会運営が紛糾しています。

与党は20日に「日歯贈収賄問題での集中審議を行なうことなどを提案しています。現在、来週の予定は決まっていません。

### 今後の国会行動予定

4/21	12:00～12:15	日比谷野外音楽堂で国会請願デモ出発集会
	12:15	デモ出発
		この後各団体・組織単位の行動
		14:00～15:00 年金者組合などが座り込み
	18:30～	4・21集会 終了後デモ出発
22	12:00～15:00	国会座り込み行動
23	同上	国会座り込み行動を予定（19日に判断する予定）

## 4・15年金ストに全国で100万人が行動

### 統一行動でダンプデモ——茨城

「4・15 全労連年金ストライキ統一行動」の一環として、同日午後7時から「全日本建設交運一般労働組合関東ダンプ協会茨城支部」がダンプデモをおこなった。土浦市大岩田の霞ヶ浦総合公園オランダ風車の隣の空き地を起点に、JR土浦駅東口、土浦共同病院前、土浦市民会館前、旧国道6号を経て、常磐道土浦北インターチェンジ方面まで、約30台がデモ行進した。

この統一行動は、年金保険料引き上げに反対しておこなわれた。「春の全国交通安全運動」最終日にあわせて開催し、年金改悪反対を訴えるとともに、1994年の道路交通法改正以降、取り締ま

りの不徹底から過積復活傾向が見られる中で、運搬した碎石などを受け取った側の取り締まり、摘発の徹底を訴えている。(常陽新聞 4.16)

## 「年金法改悪 許すな」 県庁前で 210 人が座り込み——群馬

保険料の引き上げなどを盛り込んだ年金制度改革法案に対し、「安易な負担増を許すな」と、県社会保障推進協議会（野上恭道会長）の関係者約 210 人が、15 日、前橋市の県庁前で抗議と反対を呼びかける座り込みをした。「ストップ！年金改悪」などと書いたゼッケンを身につけたりプラカードを持った参加者は、通行人らに「年金は老後の支え」「雇用の増加で財源確保を」などと呼びかけた。参加した県労会議の安藤哲雄事務局長は「最低保障年金がないなど、審議中の法案では重要なことが、見落とされている」と話した。

## 連帯集会開き改悪反対訴え——茨城

茨城県労働組合総連合(茨城労連)は、土浦市内で年金スト連帯集会を開きました。

集会には加盟労組、民主団体などから焼く 200 人が参加。年金者組合県本部の近澤重男委員長が年金改悪法案の内容を説明し、廃案を訴えました。

集会は、年金大改悪の阻止をめざして、たたかう決意を示すとともに、イラクで拘束された日本の民間人の即時釈放、自衛隊の即時撤退を求めた決議文を採択しました。

集会に参加していた自治体労働者(45)は、「率直に言って、年金はわかりにくい面がある。でも給付額が下げられるような改悪はやめさせなければならない」と話していました。

集会に先立ち、県内各地でデモをはじめ関係機関や自治体にたいする要請行動、宣伝行動など多彩な運動がとりくまれました。

### <連合通信より転載>

## 年金ストに全国で百万人／全労連など春闘第4次行動／各地で多彩な取り組み

全労連と国民春闘共闘委員会は四月十五日、全国で年金ストライキを実施し、政府の年金改悪法案の廃案を要求した。○四春闘の第四次統一行動。ストを柱とする行動に三十二単産、四十七都道府県で国民的共同も含め百万人以上が参加（事務局のまとめ）し、過去最大規模の統一行動となった。全労連と国民春闘共闘による年金ストは一九九四年以来。

自交総連が二時間以上のスト、日本医労連が一時間以上のストを行ったのをはじめ JMIU（全日本金属情報機器労組）、建交労、通信労組、全印総連、全労連全国一般、出版労連、全農協労連、民放労連、映演総連の十一単産が時限ストや指名ストを実施した。

官公労の単産は休暇取得やノー残業デーで民間単産を支援。地方労連は集会やデモ、宣伝などに取り組んだ。「全国五カ所で車両デモ」（交運共闘）、「街頭でのシール投票」（国公労連）、「十八地方で県庁・社会保険庁前で座り込み」（年金者組合）、「独自チラシの全戸配布」（富山）、「小泉首相への一斉メール送信」（京都）など多彩な行動が展開された。

京都で五万人、埼玉で二万人、北海道で一萬五千人、大阪と神奈川ではそれぞれ一万人が参加した。

全労連は国民大運動実行委員会、中央社会保障推進協議会とともに国会前に座り込んだ。埼玉や神奈川からの「直訴団」が合流し、参加者は合計約千人に達した。共同も広がった。医労連や生協労連の単組では組合と経営側が共同宣言したところも。建交労の大阪や東京の地方本部、関西生コンは集団交渉で労使共同アピールを確認した。「連合通信・隔日版」

## 早朝の2時間スト／グリーンキャブ労組

自交総連は加盟組合に対し「二時間以上のストライキ」を指示した。東京・新宿区のグリーンキャブ労働組合（約千六百人）は午前六時半から「二時間スト」を実施した。組合員の出勤時間に合わせて三十分のスト集会を四度開催。組合員らは集会に参加したあと、「年金改悪反対」のステッカーをはったタクシーに乗り込み、街に走り出していった。

同労組の領家光徳委員長は「史上最悪の年金改悪だ。年十万円以上の負担増を押しつける政府案は国民の生活を圧迫し、ハイタク産業にも重大な被害を及ぼす。何としても阻止しよう」と訴えた。スト集会に参加した組合員は「年金改悪案は弱い者いじめ。朝は稼ぎ時だが、きちんと主張しなければ」と語っていた。「連合通信・隔日版」

## 白衣でスト突入／東京労災病院

東京・大田区の東京労災病院では全労災労組東京支部（日本医労連）が朝八時から二時間にわたってストライキを実施した。約百人の組合員が白衣で参加し、年金改悪阻止を訴えた。

医労連では全国で七万五千人がストに参加した。スト集会は院内の職員食堂で行われた。激励に駆けつけた全労連の岩田幸雄事務局次長は「政府の年金改革案は保険料を引き上げ給付は引き下げる内容。政府は年金抜本改革というが、歴史的な大改悪にはほかならない」と批判。世論調査で八割の人が改悪に反対していることを紹介し、「法案をストでぶっつぶそう」と呼びかけた。

宮原房代副支部長は同病院の統廃合問題にふれた。厚生労働省は三月、労災病院の統廃合を進め〇七年度末までに七病院を削減する計画を発表した。地方では労組や住民、患者などによる反対運動が広がっていると述べた。「連合通信・隔日版」

## 駅までデモ行進／JM I Uリオン支部

「法案は労働者・国民のくらしと将来を破壊し、中小企業の経営に重大な影響を与えるもの、私たちは廃案を主張する」東京・国分寺市にある補聴器メーカー、リオンではJM I U（全日本金属情報機器労組）リオン支部が午後四時三十分から年金ストを実施し、約二百人が参加した。会社構内で集会を開き、法案廃案などを求める決議を採択。「年金改悪ストップ」と書かれた横断幕を手に、国分寺駅までデモ行進した。

参加者は駅前で法案を批判するビラを市民に配り、反対署名を呼びかけた。買い物帰りという年金生活者は「今もらっている年金は少なく、生活に必要なものを買うのがやっと。改悪には反対」と署名していた。同支部はこれまでに、組合員数を上回る約五百五十人分の改悪反対署名を集約。この一週間は連日、ビデオで改悪の内容を学習した。JM I U全体では百七支部・分会がストを行い、約五千人が行動に参加した。「連合通信・隔日版」

>

## 有楽町でシール投票／国公労連

国公労連は有楽町駅近くで「税金の使い道」街頭投票（シール投票）をよびかけながら、年金改悪反対の宣伝を行った。約二百人の組合員が参加して「給付減と負担増の政府案で将来不安が解消できるでしょうか」と訴えた。シール投票では、政府案で不安が解消できるか、財源としての消費税大幅アップに賛成かなどについてたずねた。いずれも圧倒的に「ノー」。税金の使い道としては「医療・介護の充実に」が多数を占めた。

パートの女性は「今の年金じゃ、ぜんぜん暮らせない。最低十万円は必要」、男性サラリーマンは「政府案は理解するが、保養施設建設などに資金を使ってきたことへの反省がないままでは納得できない」など、組合員との対話がはずんでいた。

国公労連はこの日六万人以上が行動に参加して全国百カ所以上でのシール投票や宣伝、民間労組

のスト支援などを行った。「連合通信・隔日版」

## 労使共同アピールも／大 阪

大阪でも四月十五日、各労組がストや集会などを実施、府下で一万人以上が行動に参加した。

自交総連大阪地連は市内で集会を開いた。会場には「国民に負担を押しつける年金改悪反対！」などと書いたポスターを張ったりのぼりを立てたタクシー百台が集結。権田正良委員長は「史上最悪の年金大改悪」と批判し、国庫負担二分の一の早期実現と安心できる年金制度の実現を訴えた。集会後、タクシーを連ねて市内をデモ行進した。

建交労関西支部は加盟する三十分会すべてで一時間ストを実施した。各分会はこの日までにそれぞれ経営側と「年金改悪をはじめとする連続的な社会保障改悪に反対する共同アピール」を調印。労使の立場を越えて政府の年金改悪案の廃案にむけた取り組みに奮闘することになっている。

大阪労連は同日、市内の扇町公園で年金改悪阻止にむけた決起集会を開いた。「消費税増税による年金改悪反対！」「給付水準引き下げ、保険料率引き上げ反対！」などの横断幕やプラカードを持った組合員約四千人が参加した。岩佐敏明議長は「税金の使い方を根本から見直せば国民に新たに負担を求めなくても信頼と安心の年金制度は実現する」と指摘。政府案だけでなく民主党案も国民に負担を強いるものと批判した。植田保二事務局長は「老人医療費問題の時に集めた百万人を上回る署名運動を」と呼びかけた。「連合通信・隔日版」

## 生協で改悪反対署名／仙 台

仙台では四月十五日、全労連宮城一般労組（及川薫委員長、約六千人）の二十支部組合員約千五百人が、指名ストや休暇戦術で街頭宣伝、署名行動、集会デモ、職場学習会に参加した。同労組はこの日にむけて支部がある会社の経営者八人と労使懇談会を開いた。「厚みのある運動の実施は十数年ぶり」（同労組）というほど力を入れ準備したという。

みやぎ生協支部では県内四十店舗のうち三十九店舗で、パート組合員を先頭に「年金改悪反対署名」を実施。十七店舗では当日だけで四千四百六十人の署名を集約した。四百二十五人の署名が集まった仙台市内の店では「こういう署名は生協だけ。頑張って」。塩釜市内の店では若い主婦らが率先して署名。「年々受給額が下げられるので困る」という高齢者を含め、六百九十人が応じた。

「連合通信・隔日版」

**全国の「4・15年金スト」関連ニュースやマスコミ記事を送付ください。**